

東日本大震災から1年

AMDAグループ代表 菅波 茂

本誌別掲の通り、東日本大震災から丸一年を迎えた三月十一日、RNN（人道援助宗教NGOネットワーク）主催による大震災の慰霊祭が、神道山の拝所において執り行われましたが、参列した国際医療NGO・AMDAの菅波茂理事長が後日、毎日新聞に寄稿されましたので、以下に転載させていただきます。（編集部）

「夢童」

3月11日。人道援助宗教NGOネットワーク（RNN）主催の東日本大震災被災者の合同慰霊祭が黒住教の本部のある神道山で実施され、多宗教の宗教者の方々とともに慰霊と復興を祈った。AMDAは「救える命があればどこへでも」のスローガンのもとに岩手県の釜石市や大槌町、宮城県の仙台市や南三陸町などで緊急救援医療活動を実施した。それでも亡くなられた被災

者の方々に対しては慰霊しかない。緊急救援医療活動にはRNN会員の宗教家の方々がAMDAの調整員として被災地での活動に参加してくださった。多くの寺院が被災していた中で、被災地の宗教家や被災者の方々に喜ばれたのは、遺体安置所やお寺における読経だった。宗教者の方々は袈裟を持参されており、乞われると読経された。我が国の災害被災地における医療と宗教の連携の最初の事例だった。RNNの歴史と活動を紹介したい。

毎日新聞三月二十二日付より



の方々から選ばれたのは、震災前にお寺でお祈りをしていた。宗教者の方々は袈裟を持参して、お祈りをしていた。RNNの歴史と活動を多宗教の宗教者の方々とともに紹介したい。1984年に岡山県に折った。AMDAは「救える命があればどこへでも」のスローガンのもとに岩手県の釜石市や大槌町、宮城県の仙台市や南三陸町などで緊急救援医療活動を実施した。それでも亡くなられた被災者の方々に対しては慰霊しかない。緊急救援医療活動にはRNN会員の宗教家の方々がAMDAの調整員として被災地での活動に参加した。我が国の災害被災地における医療と宗教の連携の最初の事例だった。RNNの歴史と活動を多宗教の宗教者の方々とともに紹介したい。

東日本大震災から1年

イスラーム教など12団体からなるAMDA事務局では、RNNが緊急救援活動を開始した翌日、釜石市に派遣された。被災地では、多宗教の宗教者の方々がAMDAの調整員として被災地での活動に参加した。我が国の災害被災地における医療と宗教の連携の最初の事例だった。RNNの歴史と活動を多宗教の宗教者の方々とともに紹介したい。



黒住教、金光教、真言宗、天台宗、立正佼成会が参加した3月11日の東日本大震災RNN慰霊祭。黒住教本部日拝所で

交際と集会所。AMDA国際基金金で成り立っている。被災地では、多宗教の宗教者の方々がAMDAの調整員として被災地での活動に参加した。我が国の災害被災地における医療と宗教の連携の最初の事例だった。RNNの歴史と活動を多宗教の宗教者の方々とともに紹介したい。

の雇用費を支援し、また夏、冬そして春と被災した職員の休養補充のために2週間単位で医療スタッフを派遣。気仙沼の猪苗代病院には看護師の就職紹介と医療資器材支援。AMDA兵庫県支部の会員が所長となった石巻市の雄勝診療所には包括的支援。

センターの設立と運営である。鍼灸院と集会所で構成。被災地の人たちの交流と被災地支援の的確なニーズ発掘と迅速な支援が目的である。3人の専門スタッフとAMDA大槌クラブやAMDA高校生会in大槌のメンバーが活躍している。被災地間交流や相互扶助も大きな目標である。3月4日には大槌

1994年に岡山国際貢献を推進する会が結成され「おかやま国際貢献NGOサミット」を開催。そのテーマに、医療・教育・環境に加え、「宗教」を据える。当初の事務局はAMDAスタッフが担当させていただいた。NGOサミットに集う宗教者により「祈りに基づく行動と行動を伴う祈り」をコンセプトに1996年、RNN：人道援助宗教NGOネットワークが生まれ、96年以来毎月定例会議を開いている。神道、仏教、キリスト教、イスラーム教など12団体に参加。RNN事務局ではAMDAが緊急救援活動開始する速報を、各参加団体に転送し募金を集めていただいている。ちなみに、一貫して事務局としてお世話役に徹しておられる黒住教本部とのお縁は、30年前に第六代教主の黒住宗晴氏に岡山の伝統や精神文化などご教示いただいたことにさかのぼる。

AMDAの被災地復興支援3カ年計画も2年目に入った。主な3項目を紹介したい。最初は医療機関支援である。公立志津川病院には、足りない看護師

町から53人がチャーターバスなどを使って気仙沼の猪苗代病院や商店街を訪ね被災者同士の交流の機会を設けた。2011年度から岡山経済同友会が実施している岡山からの夏休みの大学生派遣の受け皿としての機能も果たしている。

三つ目が東日本大震災AMDA国際奨学金である。2012年3月には最初の卒業生が巣立つ。彼らの後をモニターしたい。

医療と宗教の連携は特別な意味がある。東日本大震災の津波被害は広範囲にわたった。指定されている避難所には医療チームや救援物資が届いたものの、30人から50人程の小規模な寺院などの行政指定でない避難所には医療チームも救援物資も届かないケースが多々あった。餓死者も出たのではないかと推察している。AMDAとして積極的に宗教団体と連携することでこのような悲劇を繰り返さないことを考えている。今後も被災地復興支援3カ年計画を続けることに関して皆様方のご理解とご支援をお願いしたい。